

学校教育目標 『よく見つめ、よく考え、健康で実行力のある生徒の育成』  
令和8年度テーマ 『自ら考え、周囲と協同して未来を拓くことができる生徒の育成』校訓  
知性 創造 練磨 友愛

## 祝・創立記念日 56年目を迎えます。-深野の地から未来を拓こう-

さて、今日(4月24日)は創立記念日です。本校は、昭和46年(1971年)四条中学校から分離し、大東市内4番目の中学校として開校しました。



初代 瀧側校長



### ■「深野」という名に込められた歴史■

私たちの学校があるこの地は、かつて「深野池」と呼ばれる広大な湖のような場所でした。江戸時代の「大和川付け替え」という大工事を経て、先人たちが開拓し、「深野新田」へと姿を変えた歴史があります。「何もないところから、新しい価値を創造する」。この深野の地に流れる開拓精神は、本校の校訓である「創造」や「練磨」の精神に引き継がれていることでしょう。

### ■55年の歩みと、これからの深野中■

本校は昭和46年(1971年)、246名の一期生を迎えてスタートしました。開校2年後には全学年がそろい、全校生徒は771名にまで増加します。昭和58年には1336名(全学年とも10クラス)と開校以来のピークを迎えました。



しかし、平成に入ると生徒数は緩やかに減少していきます。平成2年には1000名を下回りました。しばらくは600名規模の活気ある学校生活が維持されてきましたが、少子化の波は次第に本校にも影響を及ぼし、平成28年には500名をきり、今年度は390名となりました。2026年、三学年がそろった状態としては開校以来最も少ない全校生徒数です。

生徒数の規模は時代とともに変化していますが、変わらないものがあります。それは、この学び舎を巣立った合計1万3368名の卒業生たちの存在です。すべてがこの深野の地に刻まれてきた大切な歴史の一部です。一人ひとりがこの地で学び、伝統のバトンをつないでいる事実が変わりはありません。

開校以来、一万人を超える卒業生が社会の第一線で「知性」を磨き、「友愛」の心を育み、活躍されていることでしょう。



### ■地域とともに歩む学校として■

深野中学校の今日があるのは、創立以来、温かく支えてくださった保護者の皆様、そして地域の皆様の支援と協力があったからこそです。この節目となる日に、改めて深野中学校の歴史を振り返り、自らの可能性を信じ、深野の地で仲間とともに力強く成長し、地域に誇れる学校をつくっていきましょう。

# ～深野中学校をちょっとだけ振り返る～

## 校舎完成まで…開校してから10年かかりました。



昭和46年 4月 1日

大東市立深野中学校開校する。

4月24日

●プレハブ校舎16棟でスタートする。

地鎮祭(じちんさい)が執り行われる。

●工事の安全と学校の発展を願って地鎮祭が行われた。翌年の4月24日、この日が学校のはじまりとして、創立記念日になったと思われる。

昭和47年11月20日

体育館が完成する。

昭和49年 2月19日

校歌が決まり、発表される。

昭和56年 3月31日

校舎と集中下足室が完成する。

昭和57年11月 5日

クラブ倉庫が完成する。

## 平成～令和では…校内の施設や設備が充実し、現在に至ります。

平成15年 8月31日

すべての学級教室にエアコンが取り付けられる。

平成22年 2月28日

屋上に太陽光発電システムが取り付けられる。

平成25年12月 9日

エレベーターが設置される。

平成26年 4月 3日

グラウンドにナイター照明が設置される。

令和 4年 8月25日

すべての教室にエアコンが取り付けられる。

令和 4年10月 3日

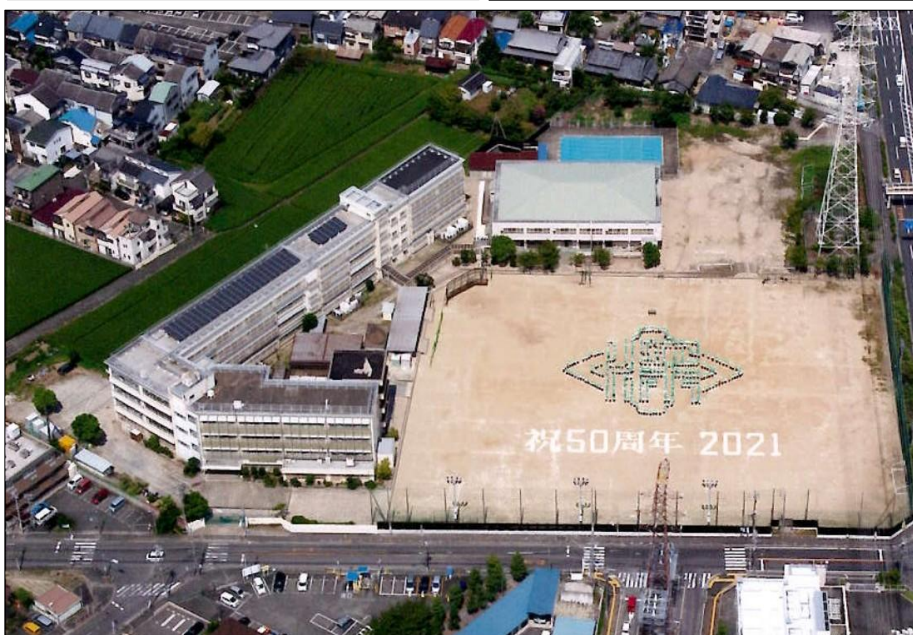
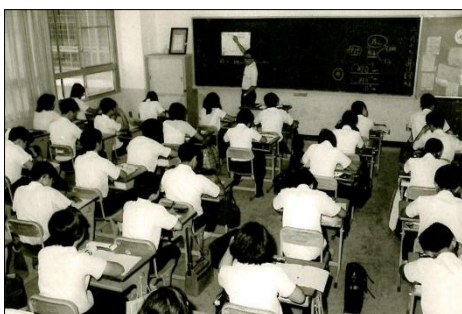
備蓄倉庫が設置される。

令和 5年 2月13日

トイレが全面改修される。

令和 6年 2月26日

体育館にエアコンが取り付けられる。



2020年に創立50周年を迎えました。(↑写真:コロナ禍のため2021年に50周年記念行事を開催)  
深野中学校は、これからも…次の五十年、そして百年へと歩み続けることでしょう。